

令和 7 年度土木部専門研修

# 建設労働災害の防止について

技 術 管 理 課

# 本講義で伝えたいこと

## 1 土木部所管事業の労働災害等【資料1】

- ・ 事務所別、事故分類別の発生状況
- ・ 熱中症対策

## 2 発注者が負う責任 【資料1】

- ・ 発注者の法的な責任等(事例をとおして)

## 3 福島県建設工事安全対策要綱【資料2】

- ・ とても大事な要綱で、発注者自らが講じるべき安全対策を明確にしたものです。実務で実施してください。

## 4 安全管理の留意点と職責に応じた役割【資料3】

- ・ 職層に応じた役割が記載されています。  
実務で活用してください。

desknet 's NE0/文書管理/企画技術総室/技術管理課/03\_労働災害防止関係/福島県建設工事安全対策要綱/

まず、「労働災害」と「公衆災害」とは

**労働災害**：作業行動その他業務に起因して、労働者が負傷、または病気になる、または死亡することをいいます。

**公衆災害**：当該工事の関係者以外の第三者（公衆）に対し、生命、身体及び財産に危害または迷惑をかけることをいいます。

# 1 土木部所管事業の労働災害等【資料1】

## 令和6年度土木部所管事業における労働災害等発生状況一覧(令和7年2月)

No	分類	細分類	発生日	発生場所	概要
1	交通事故	交通事故	R7.2.2	いわき市	一般車両が片側交互通行の仮設道路を走行中、不注意により仮設バリケードや矢印板に接触する事故をおこしたものの。
2	労働災害	挟まれ・巻き込まれ	R7.2.4	会津若松市	2tダンプに資材を積む際に、2tダンプに立てかけていた約2mの枕木が倒れ、作業員の鼻に接触し、鼻を負傷したものの。
3	公衆災害	その他	R7.2.8	会津美里町	除雪作業中に除雪車が一般車両の運転席側後部に接触し、バンパーが破損したものの。
4	労働災害	飛来・落下	R7.2.10	いわき市	クレーンでホッパーを吊り下げコンクリートを打設している際に、クレーンのワイヤーが破断、ホッパーが約1.5m落下し転がり、作業員の両足首にあたり負傷したものの。
5	公衆災害	その他	R7.2.10	福島市	足場解体に伴い、足場に設置していた防音シートをたたむ際、シートに紛れ込んでいたと思われるガレキが、隣接する住宅の窓ガラスに当たりヒビが入ったものの。
6	公衆災害	その他	R7.2.11	会津若松市	排雪作業場から除雪車が道路に出る際に、一般車両の運転席側後部に接触し、テールランプが破損したものの。
7	公衆災害	仮設物	R7.2.11	郡山市	橋梁のたもとに設置していた工事看板が風ではずれ、一般車両が通過する際に倒れ、バンパーに当たったものの。
8	労働災害	転倒	R7.2.14	双葉町	交通誘導員が交通誘導作業中に、凍結した路面に足を滑らせ転倒し、右脇腹を負傷したものの。
9	労働災害	挟まれ・巻き込まれ	R7.2.14	相馬市	緑地において作業員2名が支障木の伐採中、絡みついていたつるを切る際に、木をおさえていた補助役の左手親指にチェーンソーの刃が接触し、負傷したものの。
10	公衆災害	上空障害物に係る事故	R7.2.21	猪苗代町	路面拡幅除雪作業中に電線に接触し、切断したものの。
11	労働災害	転落・墜落	R7.2.21	北塩原村	道路函渠にできた雪庇を除去するため、作業員が交差する上部の道路法面に入った際に、滑って雪と共に道路に転落し、足首を負傷したものの。
12	労働災害	激突され	R7.2.27	二本松市	丁張用の木杭をかけやで打とうとした際に、誤って杭をおさえていた作業員の左手を打ってしまい、指を負傷したものの。

# 1 土木部所管事業の労働災害等【資料1】

(令和7年3月末時点)

## 令和4～6年度 土木部所管事業の労働災害等発生状況

①事務所別

(単位:件)

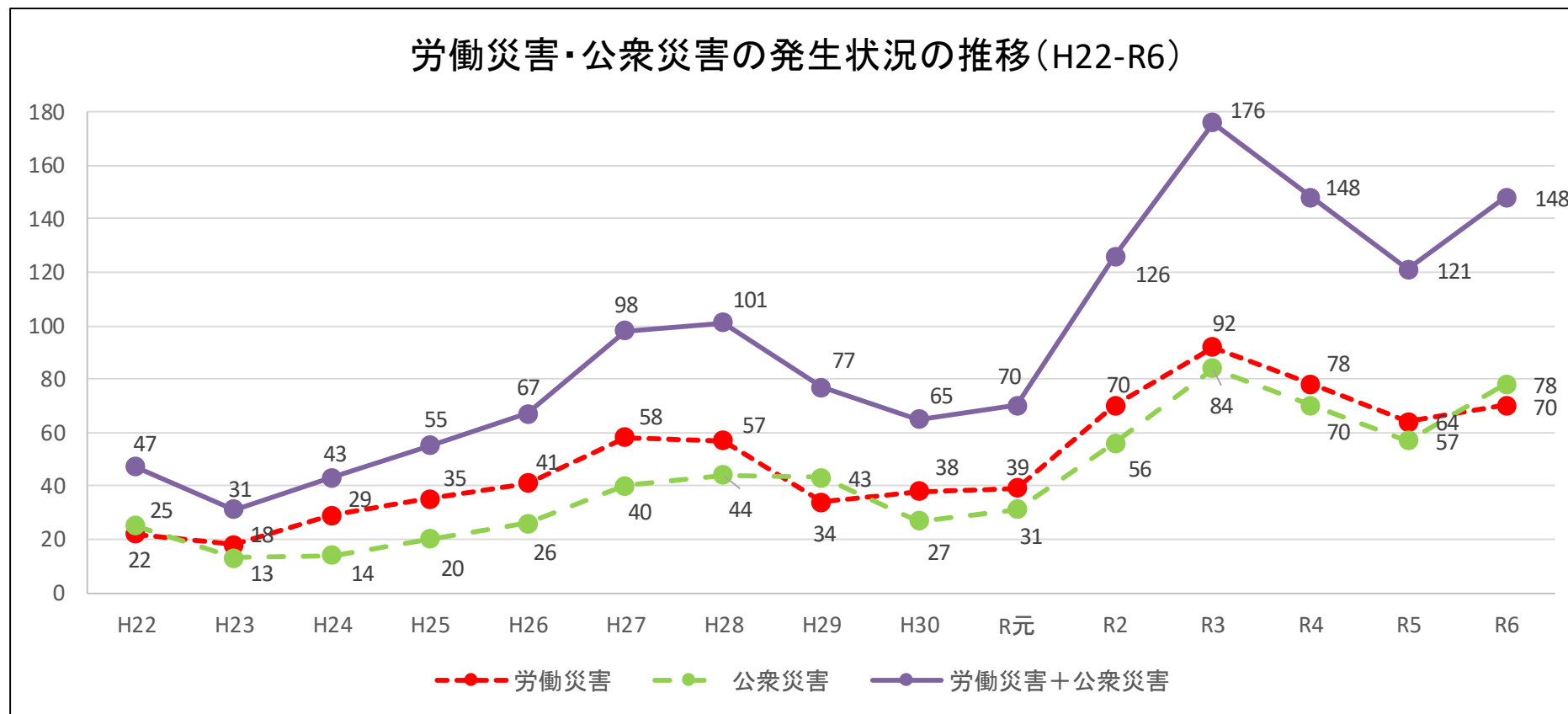
事務所	R6					R6 構成比	R5					R5 構成比	【参考】 対前年度 増減 ⑤-⑩	参考 R4
	4～6月 ①	7～9月 ②	10～12月 ③	1～3月 ④	合計 ⑤ (①+②+③+④)		4～6月 ⑥	7～9月 ⑦	10～12月 ⑧	1～3月 ⑨	合計 ⑩ (⑥+⑦+⑧+⑨)			
県北建設事務所	2	8	9	4	23	13%	3	6	3	(1) 4	(1) 16	10%	7	33
県中建設事務所	5	7	7	4	23	13%	4	9	9	7	29	19%	▲ 6	27
県南建設事務所		6	3		9	5%		5	1	2	8	5%	1	14
会津若松建設事務所	3	11	5	3	22	12%	3	7	6		16	10%	6 (1)	20
喜多方建設事務所		7	5	2	14	8%		10	2	3	15	10%	▲ 1	4
南会津建設事務所	5	7	3	2	17	9%	2	1	4	5	12	8%	5 (1)	8
相双建設事務所	4	10	7	4	25	14%	1	(1) 6	2	5	(1) 14	9%	11	11
富岡土木事務所	1	1		2	4	2%		3	1		4	3%	0	3
いわき建設事務所	3	13	8	7	31	17%	5	9	5	6	25	16%	6	28
相馬港湾建設事務所		1	1	3	5	3%	1	5		2	8	5%	▲ 3	6
小名浜港湾建設事務所		1			1	1%			2	1	3	2%	▲ 2	4
福島空港事務所			1		1	1%					0	0%	1	0
県北流域下水道建設事務所					0	0%					0	0%	0	0
県中流域下水道建設事務所					0	0%					0	0%	0	0
営繕課	2	1	2		5	3%		3	1	1	5	3%	0	2
建築住宅課					0	0%					0	0%	0	0
まちづくり推進課					0	0%					0	0%	0	0
計	25	73	51	31	180	100%	19	(1) 64	36	(1) 36	(2) 155	100%	25	(2) 160

- ・ 全体では、R3の197件をピークに減少傾向。R5比では25件増加。
- ・ 事故が多い時期は、第2四半期がもっとも多い傾向。

( ) は死亡事故

# 1 土木部所管事業の労働災害等【資料1】

(令和7年3月末時点)



(令和7年3月末時点)

# 令和4～6年度 土木部所管事業の労働災害等発生状況

②分類別

(単位：件)

分類	細分類	R6					R6 構成比	R5					R5 構成比	【参考】 対前年度 増減 ⑤-⑩	参考 R4
		4～6月 ①	7～9月 ②	10～12月 ③	1～3月 ④	合計 ⑤ (①+②+③+④)		4～6月 ⑥	7～9月 ⑦	10～12月 ⑧	1～3月 ⑨	合計 ⑩ (⑥+⑦+⑧+⑨)			
労働災害	転落・墜落	2	3	5	1	11	6%	1	(1) 7	1	(1) 2	(2) 11	7%	0	14
	転倒	3	2	2	1	8	4%	1	4	1	1	7	5%	1	(1) 12
	激突					0	0%		1		1	2	1%	▲2	1
	飛来・落下	1		2	1	4	2%		1	1	1	3	2%	1	4
	崩壊・倒壊					0	0%			1		1	1%	▲1	2
	激突され			3	1	4	2%			1		1	1%	3	4
	挟まれ・巻き込まれ	1	6	1	2	10	6%		2	1	4	7	5%	3	(1) 11
	その他	2	25	5	1	33	18%		26	4	2	32	21%	1	30
	うち熱中症		12			12	7%		15			15	10%	▲3	19
	小計	9	36	18	7	70	39%	2	(1) 41	10	(1) 11	(2) 64	41%	6	(2) 78
公衆災害	工事現場の路面管理	1		3	3	7	4%				4	4	3%	3	8
	仮設物		1	1	1	3	2%		2	3	3	8	5%	▲5	0
	上空障害物に係る事故	3	1	4	7	15	8%	3	1	3	3	10	6%	5	25
	埋設物	1	8	3	2	14	8%	2	2	5	4	13	8%	1	16
	その他	6	17	9	7	39	22%	1	8	8	5	22	14%	17	21
	小計	11	27	20	20	78	43%	6	13	19	19	57	37%	21	70
労働災害、公衆災害 合計		20	63	38	27	148	82%	8	(1) 54	29	(1) 30	(2) 121	78%	27	(2) 148
交通事故		5	9	13	3	30	17%	8	9	7	4	28	18%	2	10
施工						0	0%					0	0%	0	0
その他(盗難を除く)			1		1	2	1%	3	1		2	6	4%	▲4	2
合計		25	73	51	31	180	100%	19	(1) 64	36	(1) 36	(2) 155	100%	25	(2) 160

- ・労働災害は、6件増加。転落・墜落事故、挟まれ・巻き込まれ事故が重大事故につながりやすい。( ) は死亡事故
- ・公衆災害は、21件増加。そのほか最も多く、埋設物事故や上空障害物事故がまだまだ多い。
- ・交通事故も年々増加している。

(令和7年3月末時点)

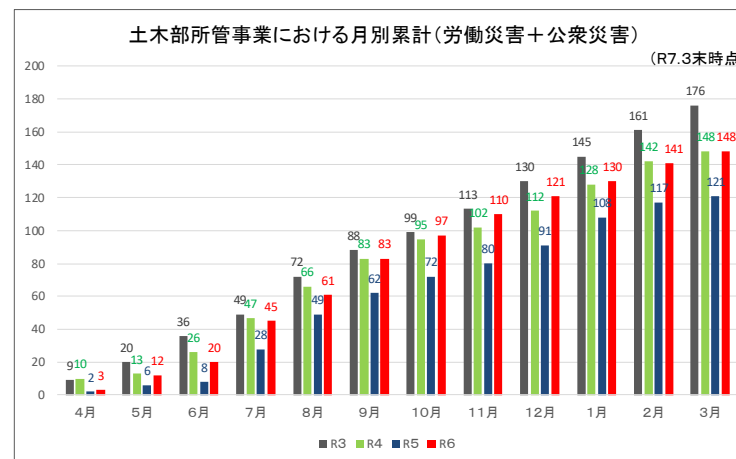
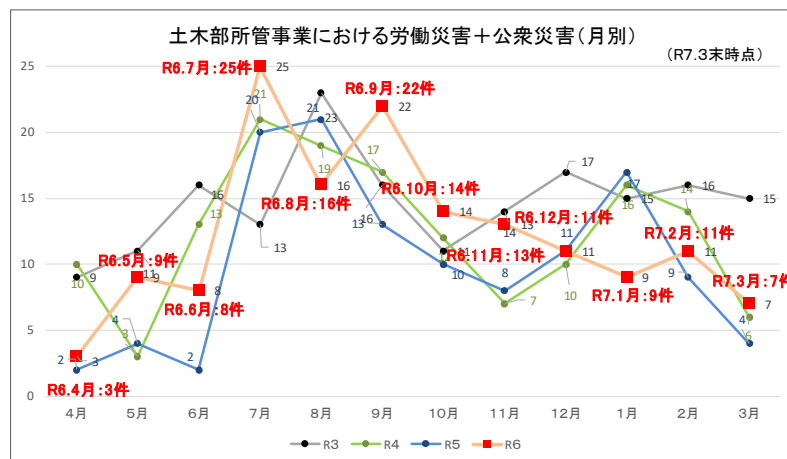
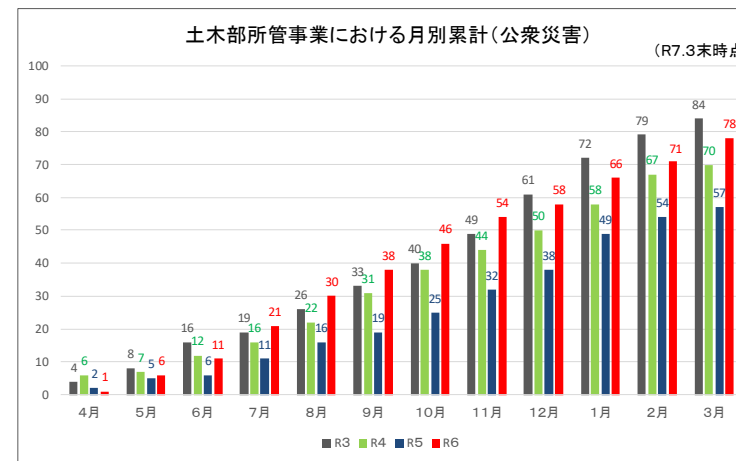
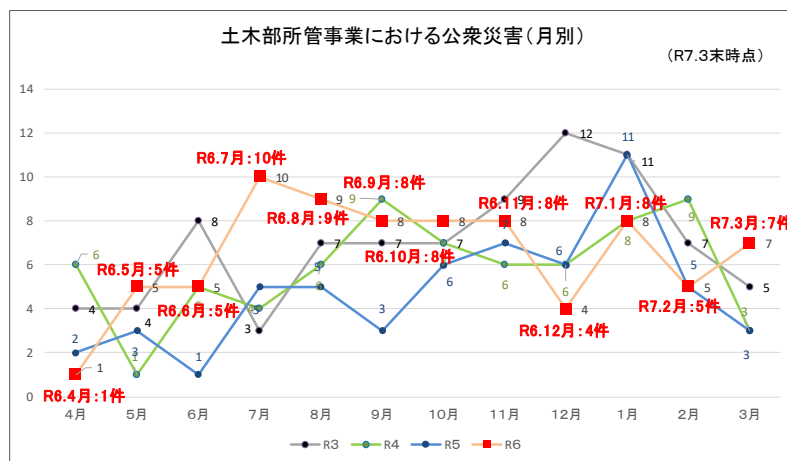
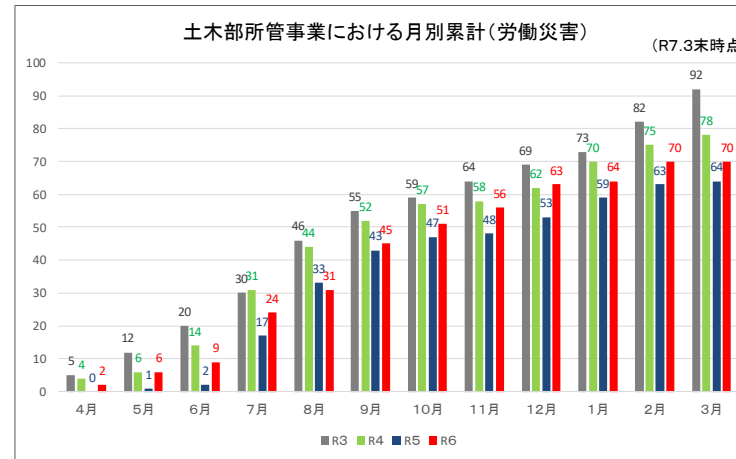
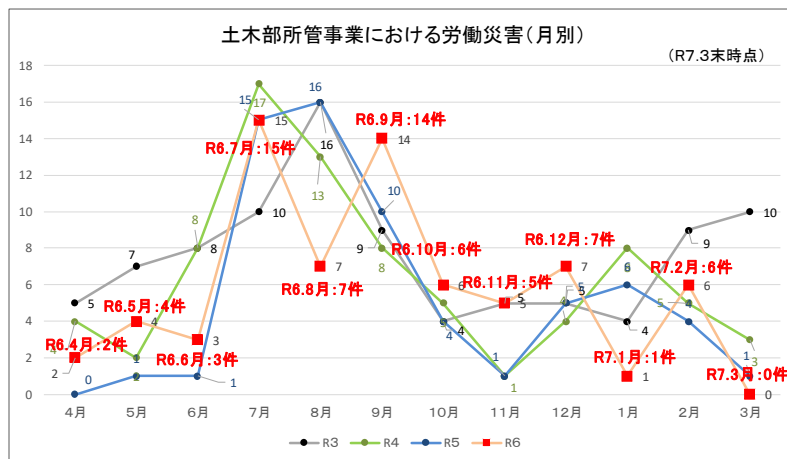
# 令和4～6年度 土木部所管事業の労働災害等発生状況

②分類別

(単位：件)

分類	細分類	R6					R6 構成比	R5					R5 構成比	【参考】 対前年度 増減 ⑤-⑩
		4～6月 ①	7～9月 ②	10～12月 ③	1～3月 ④	合計 ⑤ (①+②+③+④)		4～6月 ⑥	7～9月 ⑦	10～12月 ⑧	1～3月 ⑨	合計 ⑩ (⑥+⑦+⑧+⑨)		
労働災害	転落・墜落	2	3	5	1	11	6%	1	(1) 7	1	(1) 2	(2) 11	7%	0
	転倒	3	2	2	1	8	4%	1	4	1	1	7	4%	1
	激突					0	0%		1		1	2	1%	▲2
	飛来・落下	1		2	1	4	2%		1	1	1	3	2%	1
	崩壊・倒壊					0	0%			1		1	1%	▲1
	激突され			3	1	4	2%			1		1	1%	3
	挟まれ・巻き込まれ	1	6	1	2	10	6%		2	1	4	7	4%	3
	その他	2	25	5	1	33	18%		26	4	2	32	20%	1
	うち熱中症		12			12	7%		15			15	9%	▲3
	うち蜂刺され		9	1	0	10	6%		4			4	2%	6
	小計	9	36	18	7	70	39%	2	(1) 41	10	(1) 11	(2) 64	39%	6
公衆災害	工事現場の路面管理	1		3	3	7	4%				4	4	2%	3
	仮設物		1	1	1	3	2%		2	3	3	8	5%	▲5
	上空障害物に係る事故	3	1	4	7	15	8%	3	1	3	3	10	6%	5
	埋設物	1	8	3	2	14	8%	2	2	5	4	13	8%	1
	その他	6	17	9	7	39	22%	1	8	8	5	22	13%	17
	うち刈払機に係る物損 (飛び石等)	2	12	1	0	15	8%		6	1		7	4%	8
	うち交通事故による物損	2	2	3	5	12	7%	1		2		3	2%	9
	小計	11	27	20	20	78	43%	6	19	22	19	57	35%	21
労働災害、公衆災害 合計		20	63	38	27	148	82%	8	(1) 60	32	(1) 30	(2) 130	79%	18

- ・労働災害の【その他】のうち、熱中症と蜂刺され計22件で労働災害の約3割を占める。
- ・公衆災害の【その他】のうち、刈払機による飛び石等の物損、交通事故による物損で計27件。  
この2要因で公衆災害の約3割強を占める。



## R6. 3. 5発生の死亡事故

R6. 3. 6福島民報

R6. 3. 6 福島民友

### 足場から転落、男性死亡

福島 屋内の天井改修作業中

5日午前9時45分ごろ、

福島市荒井字地藏原のふくしま自治研修センターで、同市黒岩字稲葉、会社員佐々木彰彦さん(47)が足場から転落した。佐々木さんは頭を強く打ち、搬送先の病院で死亡が確認された。

福島署によると、佐々木さんは屋内の天井を改修していた。足場から転落したという。市消防本部によると、足場は高さ約4メートル、足場は高さ約4メートルとみられる。同署が労災事故とみて調べている。

### 足場から転落 男性死亡 福島

5日午前9時45分ごろ、福島市荒井字地藏原のふくしま自治研修センターで、天井の改修作業をしていた同市黒岩字稲葉、会社員佐々木彰彦さん(47)が足場から落下した。佐々木さんは頭などを強く打ち、搬送先の市内の病院で死亡した。

福島署は労災事故とみて原因を調べている。

# 労働災害・公衆災害アラート

令和6年3月8日

## 今年度2件目の死亡事故が発生！

建物の耐震化工事に従事していた下請作業員が、高所での作業中に足場から転落し、死亡する事故が発生しました。

### 概要

- ・ 被災者が高さ5.4 mの足場に上がり天井材の撤去作業中に、足場の産廃排出用の開口部から落下した。
- ・ 被災者はヘルメットを着用していたが、墜落制止用器具（安全帯）を着用していなかった。

(1) 労働安全衛生法令では、**2 m以上の高所作業**を行う場合には、**作業床等の設置や作業員の墜落制止用器具（安全帯）の着用**など、墜落防止措置の実施が義務付けられています。

労働災害を発生させないためにも、**必ず関係法令や現場でのルール等の遵守**をお願いします。

(2) **尊い生命が失われることのないよう**、再度、工事等に関わる全ての関係者へ、労働災害撲滅に向けた取組を徹底するようお願いします。

## R4. 9. 9発生の死亡事故

R4. 9. 10福島民報29面

R4. 9. 10福島民友27面

### 河川敷で作業員転落死 美里

9日午後5時15分ごろ、会津美里町藤家館字領家の藤川河川敷で「男性が作業中に転落したようだ」と近

くで作業をしていた同僚から119番通報があった。会津若松署によると、転落したのは須賀川市山寺町、土木作業員渡木裕さん(67)で、会津若松市の病院に搬送されたが、頭部外傷のため死亡した。同署会津美里

分庁舎によると、渡木さんは1人で作業中、斜面から重機ごと転落したとみられる。同分庁舎が労災事故として原因を調べている。

### 河川工事の男性死亡 美里

九日午後五時十分ごろ、会津美里町藤家館字領家の藤川右岸河川敷で、須賀川市山寺町、土木作業員渡木裕さん

(67)が横転したロードローラーの脇で倒れているのを同僚が発見した。渡木さんは病院に搬送されたが、約二時

間十分後に頭部外傷のため死亡が確認された。

渡木さんは河川の改良工事の作業中だった。会津若松署が労災事故とみて原因を調べている。

# 労働災害・公衆災害アラート

令和4年9月12日

## 死亡事故が発生！

河川堤防の舗装工事現場で、作業終了後の片付作業中、**搭乗式コンバインドローラ**を運転していたところ、誤って河川内に転落し、運転手が死亡。

## 上空障害物に係る事故が多発！

土木部所管事業において、**令和4年9月1日～7日の期間に公衆災害（上空障害物に係る事故）が4件発生。**

- ◎安全確保が何より最優先されるべきであり、**尊い生命が失われることのないよう、改めて事業者及び関係者へ労働災害撲滅に向けた取組の徹底**をお願いします。
- ◎上空障害物は、目で確認できるものであり、**予防等の対策で事故を無くすことができます**ので、改めて**現場を確認し、対策の取組**をお願いします。

# 労働災害・公衆災害アラート

令和6年9月9日

## 事故(労働災害・公衆災害)が多発

会津若松管内において、令和6年9月3日～6日の期間に公衆災害3件、労働災害1件が発生。

分類	細分類	発生日	事務所受信日	発生施設	発生場所	概要
公衆災害	埋設物	R6.9.3	R6.9.3	河川	昭和村	堤防舗装工事において、施工後に埋設されていた水道管から漏水が確認されたもの。
公衆災害	仮設物	R6.9.4	R6.9.5	道路	会津若松市	一般車両2台が道路を横断する際、舗装補修工事のため路上に置いてあった、釘の刺さった舗装型枠を踏み、パンクしたもの。
労働災害	その他	R6.9.5	R6.9.5	その他	会津坂下町	委託業務において、現地写真撮影のため草刈り中、作業員が蜂に刺されたもの。
公衆災害	その他	R6.9.6	R6.9.6	道路	会津若松市	歩道内にて除草作業を実施中、飛散防止対策(移動フェンス)の外に飛び石が飛び、車両の左側後方部窓ガラスを破損したもの。

会津若松管内においては、昨年度の上半期までの発生件数で、労働災害4件・公衆災害3件の合計7件に対し、今月の現時点で労働災害2件・公衆災害11件の合計13件と大幅に増加しております。

刈払機による飛び石に係る事故が4件、埋設物に係る事故が3件と半数を占めており、また、工事用車両の運転誤りに係る事故も2件発生しています。

これらのことから、**全ての作業従事者に、作業上の注意点を確認してから作業に取り掛かりますよう、改めて安全管理の徹底**をお願いします。

また、全県的に蜂刺されも多発しているため、安全対策の徹底をお願いします。

# 労働災害・公衆災害アラート

令和6年12月25日

## 事故(労働災害・公衆災害)が多発

県北管内において、令和6年12月18日～24日の期間に労働災害2件、公衆災害1件が発生。

分類	細分類	発生日	発生施設	発生場所	概要
労働災害	転落・墜落	R6.12.18	その他	二本松市	建築工事において、梁の型枠を設置していた作業員が高さ約3.4m足場から床面に転落、頭部を打ち、負傷したものの。
公衆災害	埋設物	R6.12.23	河川	桑折町	河川工事において、位置は確認していたものの、不注意により埋設されている引き込み水道管を破損し、引き込み先の1軒が断水したものの。
労働災害	激突され	R6.12.24	道路	二本松市	道路工事において、片側交互通行の規制中に、一般車両が交通誘導員に衝突し、誘導員が頭部を負傷したものの。

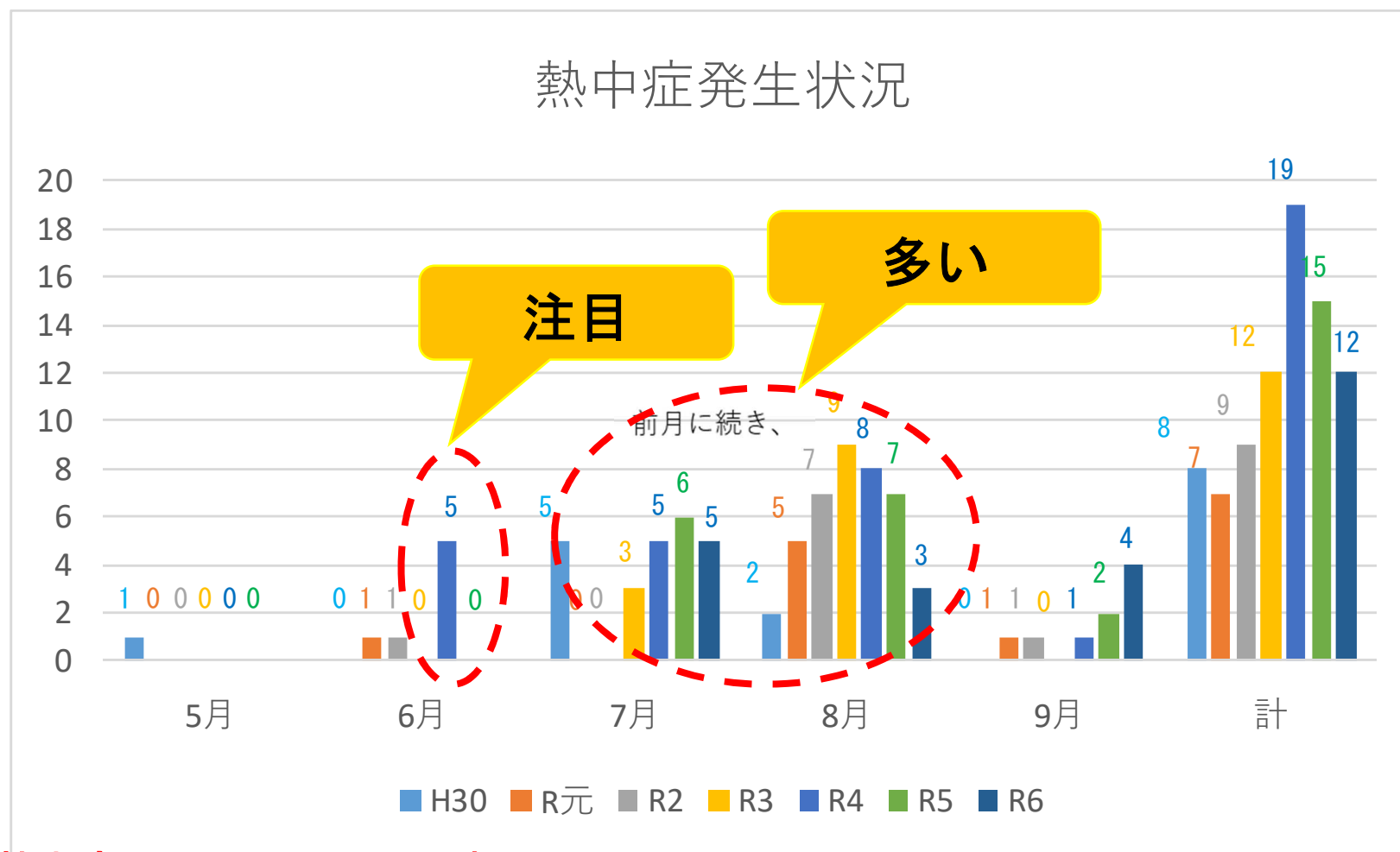
県北管内においては、昨年度1年間の発生件数で、労働災害7件・公衆災害5件の合計12件に対し、今月の現時点で労働災害11件・公衆災害5件の合計16件と特に**労働災害が増加**しております。また、第3四半期の災害発生件数が**県内で最多**となる見込みです。

これらのことから、**全ての作業従事者に、作業上の注意点を確認してから作業に取り掛かりますよう、改めて安全管理の徹底を**お願いします。

R6.12.19福島民友

【足場から落下し重傷】18日午前9時40分ごろ、二本松市安達ヶ原の安達地区特別支援学校小中学部新築工事現場で、福島市上島渡字仲原、インドネシア国籍、技能実習生ムサビド・ハナフィさん(28)が高さ3.4mの足場から落下し、頭の骨を折るなどの重傷を負った。二本松署は、ムサビドさんが足場を移動中、バランスを崩して落下したとみて原因などを調べている。

# 熱中症対策



- 熱中症は5月～9月に発生。
- R4は、6月から多く発生し、計19件の熱中症が発生（過去最高）
- R5は計15件、R6は計12件

# 熱中症対策

- ・ 熱中症対策に関する現場管理費補正試行要領【技術管理課HP】
- ・ 熱中症予防情報サイト【環境省ホームページ】

## 熱中症予防情報サイト

<http://www.wbgt.env.go.jp/>

ホーム 全国の暑さ指数 熱中症特別警戒情報 暑さ指数について 熱中症対策 普及啓発資料 関係府省庁の取組 民間事業者との取組

お知らせ一覧 メンテナンス情報 お問い合わせ [平日9:00~17:00]

### 熱中症警戒アラート

を発表しました [地図を表示]

#### お知らせ

※令和6年度の暑さ指数（WBGT）及び熱中症特別警戒アラート・熱中症警戒アラートの情報提供を、4月24日（水）から開始しました。「熱中症警戒アラート等のメール配信サービス」、「暑さ指数のメール配信サービス」、「暑さ指数予測値等電子情報提供サービス」についても、サービスを開始しております。また、LINE公式アカウント「環境省」による情報提供についてもご利用いただけます。

熱中症特別警戒情報（熱中症特別警戒アラート）・熱中症警戒情報（熱中症警戒アラート）  
発表状況

6月14日（金）17時発表



# 事務所好事例紹介（架空線等の上空障害物対策）

## ①いわき建設事務所（令和3年9月13日付け3企技第750号）

令和3年7月版  
いわき建設事務所

### 架空線等上空施設に係る現場のチェックリスト

工事番号	
工事名	
路線名	
工期	年 月 日 ～ 年 月 日
諸負者名	
施工段階における確認項目	記入欄 確認年月日
1. 工事現場における架空線等上空施設については、現地調査（場所、種類、高さ等）を行い、その調査結果について、支障物件の有無に関わらず、監督員へ報告したか。	/
2. 現地調査を踏まえ、架空線等上空施設の安全対策について施工計画書に明示しているか。	/
3 架空線管理者と施工方法の確認や立会いを行ったか。また、指示された事項はあるか。	/
4. 建設機械等のブーム、ダンプトラックのダンプアップ等により、接触・切断の危険性がある場合は、必要に応じて以下の保安措置を講じているか。 <input type="checkbox"/> ①架空線等上空施設への防護カバーの設置 <input type="checkbox"/> ②工事現場の出入り口等における高さ制限装置の設置 <input type="checkbox"/> ③架空線等上空施設の位置を明示する看板等の設置 <input type="checkbox"/> ④建設機械ブーム等の旋回・立入り禁止区域等の設定 <input type="checkbox"/> ⑤近接して施工する場合は見張員の配置	/
5. 架空線等上空施設に近接した工事の施工にあたっては、架空線等と機械、工具材料等について安全な離隔を確保しているか。	/
6. 建設機械、ダンプトラック等のオペレータ・運転手・監視人に対し、工事現場区域及び工事用道路内の架空線等上空施設の種類、位置（場所、高さ等）を連絡するとともに、ダンプトラックのダンプアップ状態で移動・走行の禁止や建設機械の旋回・立入り禁止区域等の留意事項について周知徹底しているか。	/
7. 公道における架空線等上空施設の損傷事故防止のため、重機回送時の高さチェックやダンプトラックのダンプアップ状態での走行禁止についても周知徹底しているか。	/

備考

## ②相双建設事務所（令和3年9月21日付け3企技第781号）



# 事故事例集の活用

desknet's NE0/文書管理/企画技術総室/技術管理課  
/03\_労働災害防止関係/事故等の事例集/

事故等の事例集一覧（平成27年度～令和3年度）

令和4年1月17日現在

番号	業務分野	業務種別	工種	事故分類	事故等の概要	発生年月日
1	道路	施工	擁壁	崩壊・倒壊	L型擁壁施工に伴う事故	H27.5.29
2	橋梁	施工		飛来・落下	土留工施工に伴う事故及び事故報告の遅延	H27.12.12
3	河川	施工		挟まれ・巻き込まれ	被覆ブロック転倒による事故	H28.4.22
4	海岸	施工		激突され	Co打設時における挟まれ事故	H28.9.6
5	河川	施工		公衆災害（その他）	荷下ろし作業時におけるバックホウの転倒事故	H28.9.23
6	海岸	施工		公衆災害（その他）	ブロック運搬中に道路上に落下した事故	H29.2.21
7	海岸	施工	ブロック撤去工	挟まれ・巻き込まれ	バックホウと壁に挟まれ死亡した事故	H29.7.14
8	海岸	施工	被覆ブロック工	激突され	落下した積み荷に挟まれ負傷した事故	H29.9.8
9	建築	施工	内装工	転落・墜落	高さ1.7mの箇所から落下し負傷した事故	H29.9.12
10	道路	施工		転落・墜落	工事用道路の路肩からバックホウが滑落した事故	H30.6.15
11	トンネル	施工	土工	転倒	ダンブアップ時におけるダンブトラックの転倒事故	H30.12.6
12	トンネル	施工	トンネル掘削	崩壊・倒壊	トンネルの肌落ちによる事故	H30.11.19
13	道路	施工	土工	転落・墜落	ダンブトラック荷台からの転落した事故	H30.10.23
14	道路	施工	歩道工		敷鉄板につまずき、第三者が転倒した事故	H30.4.16
15	河川	施工	排水管撤去工	飛来・落下	塩ビ管の破片の飛散により作業員が目を負傷した事故	H30.7.27
16	その他	施工	鉄筋工	労働災害（その他）	工事現場において作業員が熱中症を発症	H30.7.20
17	その他	施工	土工	労働災害（その他）	工事現場において作業員が熱中症を発症	H30.7.20
18	道路	施工		転倒	高所作業車が横転、負傷	R元.8.27
19	建築	施工		激突され	ヘリで空輸作業中、敷材が飛ばされ接触、負傷	R元.8.21
20	道路	施工		挟まれ・巻き込まれ	削岩機のドリルに服が巻き込まれ負傷	R元.8.21
21	トンネル	施工		挟まれ・巻き込まれ	ロックボルト施工中に手が挟まれ負傷	R元.6.12
22	橋梁	施工	橋梁下部工	挟まれ・巻き込まれ	作業手順を守らず、クレーンの組立作業時に指を挟み負傷	R元.5.11
23	トンネル	施工		労働災害（その他）	作業員が熱中症を発症（2人）	R元.8.2
24	道路	施工		労働災害（その他）	除草作業中に飛散防止板を持っているベア作業者に接触、負傷	R元.7.22
25	道路	施工		上空障害物に係る事故	電線に引っかけ信号柱が倒れ、車損傷、第三者負傷	R元.7.10
26	道路	施工		埋設物	地下埋設のNTT線、光ケーブルを切断	R元.11.15
27	道路	施工	改良舗装・電線共同溝	埋設物	掘削作業時、埋設されていた水道管を破壊	R元.7.12
28	道路	施工	法面	転落・墜落	法面の施工中、転落、死亡	R元.9.20

番号	業務分野	業務種別	工種	事故分類	事故等の概要	発生年月日
29	機械	施工	ダクト工	転落・墜落	作業を始めようとしたところ、脚立からバランスを崩し、転落	R2.11.7
30	下水道	施工		飛来・落下	立坑の最上部に設置されていた鋼製網の上に足を載せた際、網が坑内に落下して立坑底にいた作業員を直撃	R2.7.21
31	海岸	施工	護岸基礎工	飛来・落下	鋼材を吊り上げた際、近くの鋼材に接触し、落下した鋼材が当たり負傷	R2.10.19
32	河川	施工	矢板工	転倒	クレーン組立作業で、ピンを抜いたところ、クレーンの部品が倒れてきて負傷	R2.6.15
33	道路	施工	防雪柵工	転倒	アウトリガーを使用せず、荷卸し中、車両が横転	R2.8.21
34	道路	施工	縦排水工	転倒	仮設階段を降りたところで小石を踏み転倒	R2.9.9
35	河川	施工	仮設工	挟まれ・巻き込まれ	大型土嚢の製作中、バックホウの後方で投入口を縛る作業を行っていた作業員が後退したバックホウのキャタピラーと大型土嚢の間に挟まれ負傷	R2.6.10
36	道路	施工		上空障害物に係る事故	バックホウの移動中に、バックホウのブームが架空線通信線に接触し切断	R2.5.12
37	道路	施工		上空障害物に係る事故	側溝の埋め戻し作業中にバックホウアームが上空のNTT架空線を引っ掛け、架空線が引っ張られたことにより、NTT柱が路面から約2mの位置で折損し傾いた	R2.9.3
38	道路	施工		埋設物	板柵工を設置しようとしたところ、埋設水道管を損傷	R2.6.29
39	道路	施工	落石防護工	埋設物	積ブロック取り壊し作業中、埋設された温泉管を破壊	R2.7.14
40	建築	施工	とび工・仮設足場組立	転落・墜落	昇降用のタラップが外れ作業員が2.3m下に転落	R3.5.8
41	道路	施工		転落・墜落	トラックの荷台から作業員が落下し、左手首を骨折	R3.8.5
42	河川	施工	伐木工・立木伐採	転倒	伐木の補助作業をしていたバックホウがバランスを崩し、転倒、バックホウの運転手が死亡	R3.10.5
43	橋梁	施工	橋梁上部工・アーチリブ製作作業	飛来・落下	型枠を組立中、上部から角鋼管が作業員に落下	R3.11.29
44	河川	施工	護岸工	崩壊・倒壊	小口止の人力床付作業中、隣接の石積護岸が崩壊	R3.5.27
45	トンネル	施工	トンネル工・セントル解体	崩壊・倒壊	セントルの解体作業を行っていた際、H鋼の支柱が倒壊	R3.6.30
46	道路	施工	撤去工・土砂撤去	激突され	バックホウのバケットが作業員に激突	R3.4.7
47	道路	施工		挟まれ・巻き込まれ	トラロープを持った作業員が助手席に乗り、車が走り出した際、車外にはみ出していたロープに引っ張られた	R3.5.14
48	港湾	施工		挟まれ・巻き込まれ	トラックから合材を積みおろしする際、バックホウのキャタピラーが清掃をしていた作業員の足を挟んだ	R3.12.14
49	道路	施工	舗装補修	工事現場の路面管理	作業中の補修のために、工事現場の歩道上で作業していたところ、走行中の自動車に巻き上げられ、後続の自動車に当たった	R3.9.29
50	砂防	施工	排水構造造土工	上空障害物に係る事故	施工のためバックホウを移動しようとしたところ、バックホウのアームがケーブルに接触し切断	R3.10.2
51	道路	施工	舗装	埋設物	ガードパイプ打ち込み時に水道管を破壊	R3.4.7
52	河川	施工	護岸工	公衆災害（その他）	積ブロック工の床置完了後、近接する取水堰のしゃ水壁が倒壊	R3.11.5
53	河川	施工		公衆災害（その他）	急激に水位が上がって作業員3名が仮締め切りの土のうの上に取られ死亡	R3.12.1

# 事故事例集の活用

事故等の事例集（個表）

事例番号	10	(表)	
業務分野	<input checked="" type="checkbox"/> ①道路 <input type="checkbox"/> ②橋梁 <input type="checkbox"/> ③トンネル <input type="checkbox"/> ④河川 <input type="checkbox"/> ⑤砂防 <input type="checkbox"/> ⑥ダム <input type="checkbox"/> ⑦海岸 <input type="checkbox"/> ⑧港湾 <input type="checkbox"/> ⑨街路 <input type="checkbox"/> ⑩公園 <input type="checkbox"/> ⑪下水道 <input type="checkbox"/> ⑫建築 <input type="checkbox"/> ⑬電気 <input type="checkbox"/> ⑭機械 <input type="checkbox"/> ⑮その他		
業務種別	<input type="checkbox"/> ①調査 <input type="checkbox"/> ②設計 <input checked="" type="checkbox"/> ③施工 <input type="checkbox"/> ④工種( )・工程( ) <input type="checkbox"/> ⑤その他		
タイトル	切土法面におけるバックホウ滑落・横転事故について		
工事名	道路橋りょう整備（再復）工事（改良）		
工事概要	道路改良工 L=393.8m W=6.5（10.25）m		
事故等の内容	切土法面内の工事用道路（斜路）において、雨水の浸透・浸食を防ぐためバックホウで路面の締固め作業中に、路肩から斜面下に滑落・横転した。（オペレーターにケガは無し）		
事故等の背景・原因	○ 路肩注意の旗を路肩に立てていたが、設置スパンが広がった。 ○ 工事用道路（斜路）の路肩位置がバックホウのオペレーターから判りにくかった。 ○ バックホウのオペレーターに慣れや油断があった。 ○ 現場代理人等も今回のようなリスクに対しての危機意識がやや足りなかった。		
改善策と学ぶべき事項	<p>&lt;改善策&gt;</p> <p>○ 工事用道路を3m程度から4m程度に拡幅した。</p> <p>○ 路肩の注意喚起の旗を2m間隔とし、合わせて路肩にトラロープを設置した。</p> <p>○ 路肩盛土を設け、物理的に路肩に寄れないようにした。</p> <p>&lt;学ぶべき事項&gt;</p> <p>○ 作業計画書の作成段階から、オペレーターが路肩を見誤らないような注意喚起方法や物理的な対策など、より具体的な安全対策イメージを持つ必要がある。</p> <p>○ 今回の事故は慣れや油断によるところが大きく、一歩間違えば死亡災害に至った可能性もあった。作業員の末端まで安全を強く意識させる教育が欠かせないと同時に各作業のリスクを必ず見積もり、具体的な対策に繋げることが重要である。</p>		
今後の方針・対応	<p>&lt;受注者として&gt;</p> <p>○ 朝礼等で、その日の作業内容や作業範囲を確認するとともに、各現場状況毎に安全教育（KY活動等）を行い、その中でより具体的な指示や注意を必ず行うことを徹底した。</p> <p>○ 作業計画を立てる際には、リスクを十分考慮した上で作成することとした。</p> <p>&lt;発注者として&gt;</p> <p>○ 現場工程会議や段階確認などの際には、安全対策の確認を必ず行うことと、その際にはリスクを想定しながらチェックすることを徹底した。</p>		

(裏)

<写真>

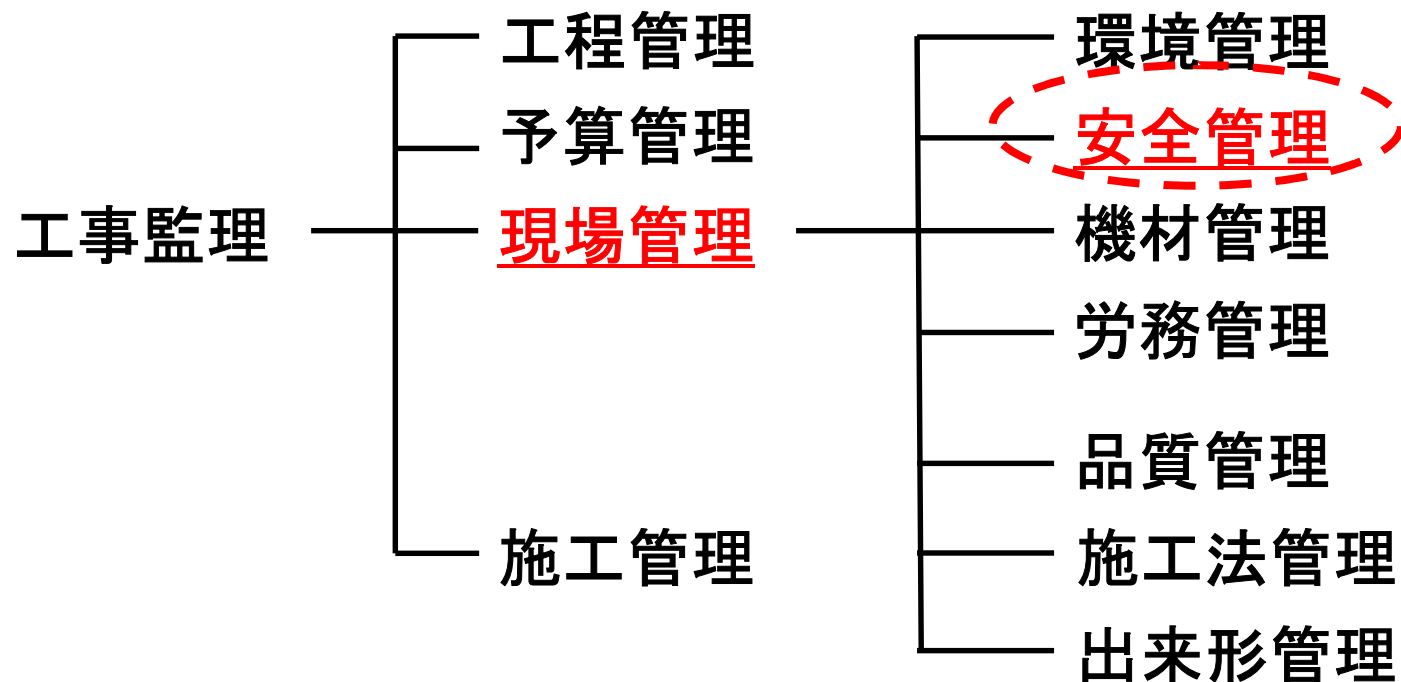


<図面>

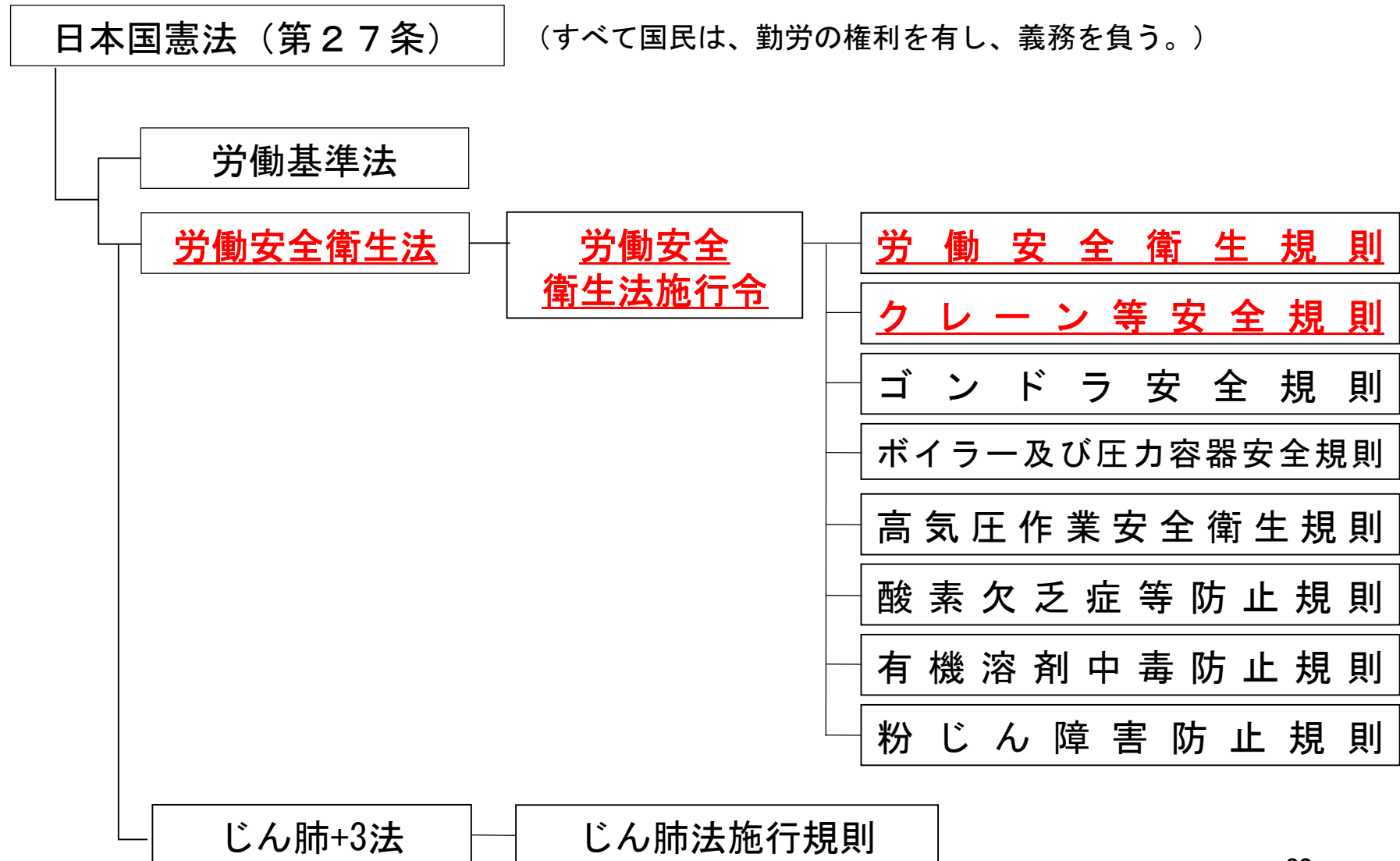


## 工事監理の目的

1. 工期の厳守（工程管理）
2. 経済性の確保（予算管理）
3. 工事現場の環境保全及び安全性の向上（現場管理）
4. 材料及び出来形の品質の均一性の確保（施工管理）



# 安全管理に係わる法令・規則



### 3 福島県建設工事安全対策要綱【資料2】

# 安全管理に係わる基準

## 公共工事の発注における 工事安全対策要綱

【建設省技術審議官通達】

平成4年7月1日付け技調発第165号

- ①除染等業務に従事する労働者の放射線障害防止のためのガイドライン
- ②特定線量下業務に従事する労働者の放射線障害防止のためのガイドライン

## 建設工事公衆災害防止対策要綱【事務次官通達】

(平成5年1月12日付け建設省経建発第1号)

改正 令和元年 国土交通省告示 第496号令和元年9月2日

## 土木工事安全施工技術指針【大臣官房技術審議官通達】

(平成13年3月29日付け建設省技調発第77号の2)

改正 国土交通省告示 第271号令和4年2月18日

## 建設工事に伴う騒音振動対策技術指針

【大臣官房技術参事官通達】

(昭和62年3月30日付け建設省経機発第58号の2)

## 建設機械施工安全技術指針【建設機械課長通達】

(平成17年3月31日付け国官技発第303号)

## クレーン則

## 玉掛け作業の安全に係るガイドライン【労働基準局長通達】

(平成12年2月24日付け基発第96号)

## 安全衛生規則

## 交通労働災害防止のためのガイドライン【労働基準局長通達】

(平成20年4月3日付け基発第0403001号)

改正 平成30年6月1日

# 安全管理の目的

建設工事において、労働安全衛生法等の法令・規則に加え、建設工事公衆災害防止対策要綱及び土木工事安全施工技術指針を準拠することにより、直接作業に従事する労働者の「労働災害」を防止するのみならず、現場周辺の住民及び住宅並びに一般通行人等に対する「公衆災害」を含めた災害を防止することを目的としている。

# 安全管理の目的

## ※「労働災害」と「公衆災害」の防止

**労働災害**：労働者の就業にかかる建設物、設備、原材料、ガス、蒸気、粉じん等により、又は作業行動その他業務に起因して、労働者が負傷し、疾病にかかり、又は死亡することをいう。（労働安全衛生法 第二条）

**公衆災害**：当該工事の関係者以外の第三者（公衆）に対する生命、身体及び財産に関する危害並びに迷惑（建設工事公衆災害防止対策要綱 第1）

# 発注者の安全管理に係る権限の根拠

## 1. 災害防止のための措置（福島県工事請負約款 第26条第3項）

監督員は、災害防止その他工事の施工上特に必要があると認めるときは、乙に対して、臨機の措置をとることを請求することができる。

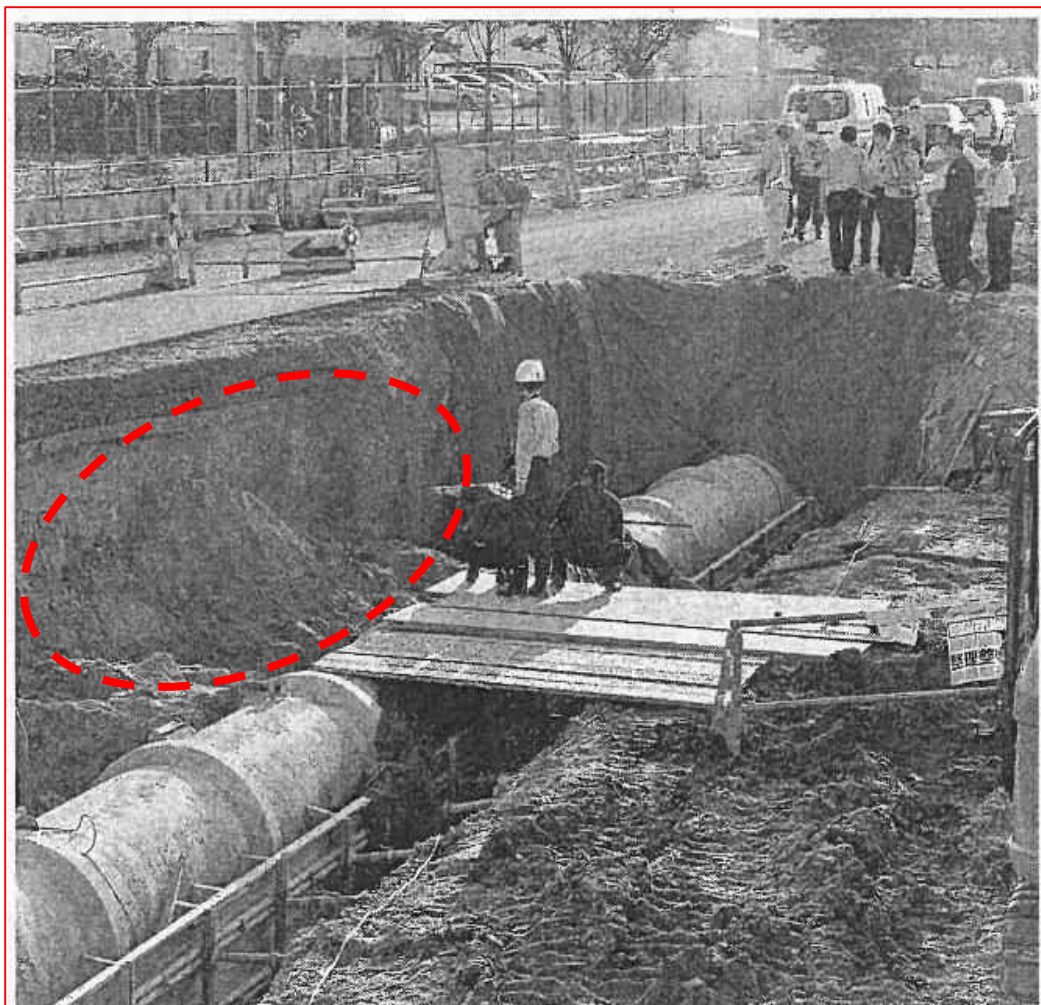
## 2. 関連工事の調整（福島県工事請負約款 第2条）

甲は、乙の施工する工事及び甲の発注に係わる第三者の施工する他の工事が施工上密接に関連する場合において、必要があるときは、その施工につき、調整を行うものとする。～ 略 ～

## 3. 適正工期の確保（労働安全衛生法 第3条第3項）

建設工事の注文者等仕事を他人に請け負わせる者は、施工方法、工期等について、安全で衛生的な作業の遂行をそこなうおそれのある条件を附さないように配慮しなければならない。

# 労働災害の発生により担当課長が書類送検された事例 本宮市発注の建設労働災害事故



## ○労働災害事故の概要（福島民報）

平成25年9月19日午後1時40分頃、本宮市荒井の道路工事現場で、農業用水が流れる管の補強工事のために掘った地面の壁面の土砂が崩れ、作業員2名が生き埋めになり、その後搬送先の病院で死亡した。

## ○労働災害事故の状況（福島民報）

農業用水を流す管の土台をコンクリートで補強する作業のため地上から約3mの深さまで地面を掘っていたが、突然、壁面の土砂が崩れた。

## 郡山北警察署の動き（新聞報道による）

### ○本宮市役所の家宅捜査

郡山北警察署は平成26年3月4日午前10時頃から署員約20人が約2時間にわたり本宮市役所を搜索、工事に関わる資料を押収した。請負会社に対する監督責任や安全管理に問題が無かったかなどを詳しく調べている。

### ○本宮市課長ら 8 人書類送検

業務致死容疑 警察「危険予測できた」

送検された市職員は産業部担当課長と建設課監督員。監督員は事故前に現場を視察し、担当課長はその内容の報告を受け、業者を指導する立場にあった。郡山北警察署は関係資料なども分析し安全上の注意や指導を怠ったとして、二人の刑事責任を問えると判断した。

## 警察が監督員に過失があったとする根拠

- 1 設計図書（図面）と違った施工をしていることを監督員は認識していた。
- 2 監督員はヒューム管の確認はしたが床堀完了後の確認はしなかった主張しているが、現場監督経験が200回を超えるベテラン監督員が何度も現場に行って危険を予知できなかったとは考えにくい。
- 3 監督員は大雨後の状況を確認するため事故発生当日に現場に行っている。
- 4 2名が死亡した重大事故において監督員の過失がゼロとは考えにくい。

## 担当課長も書類送検された理由

監督員の現場立会い結果が書類で報告されている。  
何も気づかず、何の指示もしなかったことに過失が  
あったと判断された。

○刑法第211条第1項（業務上過失致死傷罪）

業務上必要な注意を怠り、よって人を死傷させた  
者は5年以下の懲役若しくは禁錮又は100万円以下  
の罰金に処する。重大な過失により人を死傷させた者  
も同様とする。

# 発注者の監督権限の法的根拠

## 1. 地方自治法（第234条の2）

契約の適正な履行を確保するため又は、その受ける  
給付の完了の確認に必要な監督・検査義務を規定

## 2. 公共工事の品質確保の促進に関する法律

：「公共工事品確法」（第7条）

発注者の責務である「発注関係事務」の一環として、  
公共工事の品質が確保されるよう工事等の監督及び検査並びに工事等の実施中及び完了時の施工状況又は調査等の状況の確認及び評価その他の事務を規定

# 労働災害事故が発生した場合

様式は、土木部DB>企画技術総室>土木企画課（防災担当）

事故報告（作業員負傷）

事件(事故)等報告書		【第1報】
※【土木部長等への報告様式】		
件名	国道●●●号、道路改良工事における現場内事故について (作業員の負傷)	
担当課：●●建設事務所 ●●課 担当者（※：担当者）：主査●●●● 電話●●●●-●●-●●●●		
事件(事故)発生日時	平成28年6月30日（木）10時50分頃	
事務所受信日時	平成28年6月30日（木）10時50分頃	受注者より。 ←事務所受信
所管課受信日時	平成28年6月30日（木）10時50分頃	↓ここは、所管課が記入 事務所より ←所管課が受信
部長報告日時	平成28年6月30日（木）11時30分頃	↓ここは、所管課が記入 所管課が、 ←土木部長へ報告
情報提供先	危機管理部（有・無） 二役（有・無） マスコミ（有・無）	
事件(事故)等の概要	（報告者：道路課●●担当 主査 ●●●●） 1 工事番号：第17-41●●●●-●●●●号 2 工事名：●●●●工事 3 工事箇所：福島市杉妻町地内 4 路河川名：（主）●●線 5 工事内容：道路改良工 L=1,000m 6 請負者：●●建設工業(株) 7 事故状況： ・橋梁上部の施工に先立ち、足場設置工を作業中、強風にあおられ 二段目足場約2mから転落し、左足を負傷した。 ※負傷者：●●●●氏（歳）男性 ※下請業者（二次）：●●●●工業(株) ※現在、救急車にて病院へ搬送中 今後の対応方針 ・負傷者は、現在、病院へ搬送中のため、詳細の症状は不明。 ※診断結果等が確認でき次第、第二報にて報告する。（14時頃を予定）	
備考		

・発注者は、日頃から受注者に対し、現場内で何か発生したら、迅速な情報提供を行うよう指示！  
※緊急時は、現場からの「第1報」が重要！  
※施工計画書の緊急連絡網を確認（平日は勿論、休日や夜間も連

・事故発生から、土木部長報告までの時間は迅速に行うことが望ましい。  
※第1報は、全容を把握してからではなく、分かり得る範囲での情報でよい。

・所管課が判断の上、記入し、土木部長に報告する際に確認する。

・事故が発生した工事（現場）について、基本的な情報を記載する。

・事故当時の状況、負傷者の状況、怪我の程度等、基本的な情報を記載する。

・現在の状況を記載する。  
・また、第2報の報告予定時間を記載することにより、所管課との連絡、調整がスムーズとなる。

・特質すべき事項があれば記載する。

# 労働災害事故が発生した場合

様式は「入札監理課」のHPに掲載

様式第2-1号（第7条第2項関係）

## 【速報】

速報

工事現場等における事故発生報告書

年 月 日

入札監理課長

(工事等執行権者)  
事務担当者 (内線 )

発注工事において工事関係者事故（公衆損害事故）が発生したので、福島県建設工事等参加資格制限措置要綱第7条第2項の規定に基づき下記のとおり報告します。

事故発生日時	年 月 日 ( ) 時 分 頃
発生場所	
工事名	
請負人	住所 氏名
下請負人	住所 氏名
被疑者	氏名 性別 年齢 職業 被疑内容
事故内容等	

事故発生後 3日以内に提出する

となっているが、口頭で良いので、程度に関係なく、主務課には、速やかに報告！

勝手に判断しない！

(注) 1 この報告書は、県及び県以外の一級地方公共団体の発注工事に関する事故について提出すること。  
2 この報告書は、事故発生後3日以内に提出すること。  
3 この報告書には、図面・写真等の参考書類を添付すること。

様式第2-2号（第7条第2項関係）

## 【詳報】

詳報

工事現場等における事故発生報告書

文書記号及び番号  
年 月 日

(工事等執行権者)  
事務担当者 (内線 )

発注工事において工事関係者事故（公衆損害事故）が発生したので、福島県建設工事等参加資格制限措置要綱第7条第2項の規定に基づき下記のとおり報告します。

※入札参加資格制限の審査対象

1 日	
2 発生場所	
3 工事名	
4 請負人	(1) 商号・名称 (2) 住所 (3) 代表者 (4) 取得している建設業許可業種(一般・特定) (5) 認定を受けている入札参加資格業種 (6) 現場代理人 氏名 (事故発生時、現場にいた。いない。)
5 下請負人	(1) 商号・名称 (2) 住所 (3) 代表者 (4) 下請工事の内容 (5) 下請金額 (6) 取得している建設業許可業種(一般・特定) (7) 認定を受けている入札参加資格業種 (8) 主任技術者 氏名 (事故発生時、現場にいた。いない。)

①死亡事故

②医師の診断：全治1か月以上  
：入院2週間以上

③公衆損害事故（物的損害額）  
：50万円以上

#### 4 安全管理の留意点と職責に応じた役割【資料3】

# 技術力を磨くことが身を守る

いかなる場合でも、

発注者（監督員）としての責任は逃れられない

■発注者支援技術者制度やCM方式を採用しても、地方自治法に定められた監督・検査権の一部を委任するもので、最終的な責任は発注者が負う。

■引き受け（竣工検査）後は、構造物の瑕疵に起因する損害賠償や住民訴訟など、全ての公物管理・支出に係わる一次的な責任を発注者（監督員）が負う。



◎瑕疵を未然に防ぐための現場監督能力

◎長期的な影響を判断できる結果予見能力

# 労働災害防止対策のために 発注者として何をすべきか

## ① 「知識」を身に付ける

- ・ 福島県工事請負契約約款
- ・ 福島県共通仕様書（土木工事編）
- ・ 福島県建設工事安全対策要綱
- ・ 労働安全衛生法
- ・ 労働安全衛生規則
- ・ 土木工事安全施工技術指針
- ・ 建設工事公衆災害防止対策要綱

## ② 「施工計画書」の記載内容が理解できない場合は受理しない （共通仕様書：監督員がその他の項目について補足を求めた場合は追記すること）

## ③ 「活きた現場」に行って目を鍛える（数多くの現場に足を運ぶこと）

## ④ 「施工者」との信頼関係の構築（より良い社会資本を一緒に造る意識）

## 蜂刺されによる労働災害を防止しましょう



令和5年、小諸労働基準監督署管内において、屋外で作業していた労働者が蜂に刺され、アナフィラキシーショックにより死亡する労働災害が発生しました。

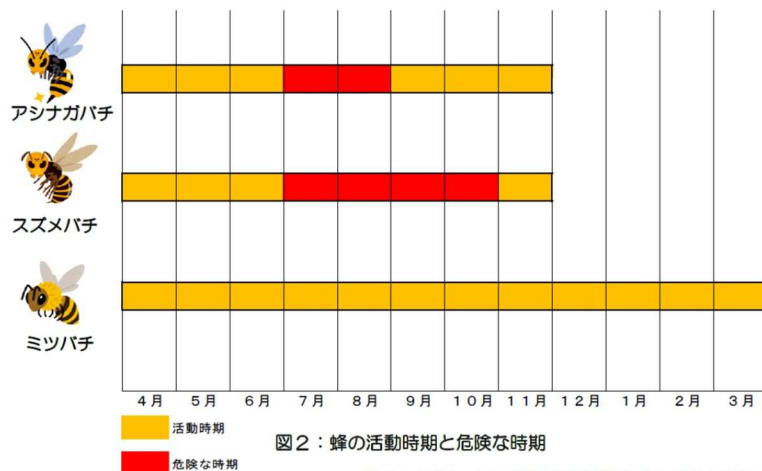
日本における蜂刺されの死者数は毎年平均 15 人発生しており、令和4年では 20 人となっています。

図1：日本における蜂刺されの死者数

	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
死亡者数（人）	19	13	12	11	13	15	20

出典：厚生労働省人口動態統計

蜂は種類によって危険な時期が異なります。ミツバチは越冬できる蜂であるため、1年中活動しています。スズメバチは7月頃から10月頃まで、アシナガバチは7月頃から8月頃までが活発的になり、蜂刺されの被害は8月がピークとなります。そのため、これらの時期に屋外で作業するときは蜂に刺される危険性が高くなります。



蜂はヒスタミンやセロトニンなどのアミン類を主成分とする「蜂毒」をもっており、皮膚を通して「蜂毒」が体内に吸収されると、刺された箇所を中心に大きな腫れやかゆみをもたらす局所反応、またはじんましんなど体中に症状が出る全身症状が現れます。特に全身症状は、軽症、中症、重症、重篤な症状の4つに分かれ、蜂刺されによるアナフィラキシーショックは重篤な症状に該当します。アナフィラキシーショックは発症から短時間で心肺停止に至ることがあるため、裏面を参考に、事業者として蜂刺されによる労働災害防止に取り組みましょう。

小諸労働基準監督署

## 【事業者として行うべき対策】

## 1 事前に作業場所を確認し、蜂の生息の有無を確認する。

あらかじめ作業場所に蜂が生息しているかを確認しましょう。蜂や蜂の巣を見つけた場合は、振動等の刺激を与えないようにし、除去等を行うまでは近くで作業することを避け、労働者を巣に近寄らないようにさせましょう。



## 2 適切な保護具を備え付け、適切な服装で作業させる。

(労働安全衛生法第22条、労働安全衛生規則第594条)

蜂に刺されると皮膚を通して「蜂毒」が体内に吸収され、健康障害を引き起こすおそれがあります。そのため、蜂に襲われても蜂針が通らない防護手袋や防蜂網など、適切な保護具を備え付け、労働者が常に使用できる状況にしましょう。また適切な保護具や救急用具の備付け労働者に周知しましょう。蜂は黒い物に対して攻撃的になるため、黒色のものは避け、肌を露出しない格好で労働者に作業させましょう。



## 3 万が一、蜂に刺されてしまったときに備え、救急用具を備え付ける。

(労働安全衛生法第23条、労働安全衛生規則第633条)

万が一、蜂に刺されてしまったときに備え、毒吸引器や抗ヒスタミン軟膏などの救急用具を備え付け、応急措置ができる体制にしましょう。

蜂に刺されたときは現場から離れ、速やかに毒吸引機で毒を絞り出し、毒のまわりを遅くするため患部を冷水で冷やした後、刺された箇所に抗ヒスタミン軟膏を塗り、応急措置をします。



## 4 アナフィラキシーのおそれがある者に自己注射器を携行させる。

重篤なアレルギー反応を起こすおそれのある者が蜂に刺された場合、特に2回目以降はアナフィラキシーショックを起こし、死亡する危険があります。そのため、事前に医療機関で蜂アレルギーの検査または診察を受けさせ、重篤なアレルギー反応を起こすおそれのある労働者には自己注射器（商品名：エピペン®）を携行させましょう。

この自己注射器の使用には、あらかじめ登録医師の診察と処方が必要です。専用ウェブサイト (<http://www.epipen.jp/top.html>) から自己注射器の使用方法等の情報を入手できます。



## 5 蜂刺され労働災害防止等の安全教育を実施する。

(労働安全衛生法第59条、労働安全衛生規則第35条)

雇入れ時の安全教育や定例の安全衛生会議、朝礼などを利用して、労働者に蜂刺されによる健康障害や適切な保護具の使用法、救急用具の使用法と応急措置などについて安全教育を実施しましょう。



問合せ：小諸労働基準監督署 監督・安衛課  
 所在地：〒384-0017 長野県小諸市三和1-6-22  
 電話：0267-22-1765